

「小河内」便り 第15号 平成24年1月

特定非営利活動法人 小河内プロジェクト（理事長 渡辺眞作）

事務所 〒731-1171 広島市安佐北区安佐町小河内4579-3

安佐小河内集会所内

TEL&FAX 082-835-0831

ホームページURL <http://ogauchi.web.fc2.com/>



平成24年（2012年）の新しい年を皆さま元気で迎えられたことと存じます。

昨年4月、NPO法人小河内プロジェクトを設立、農地や環境保全、都市住民との交流、農村体験ツーリズム、弥太郎君、小河内どどん農園、配食、伝統文化の継承等多くの事業を会員、住民の皆さまをはじめ農村活性化コーディネーター、広島市、安佐公民館、青少年野外活動センター等多くの皆さまのご指導、ご支援をいただき無事実施して参りました。ありがとうございました。

本年も「行ってみたい、住んでみたい、住んで良かった」小河内を目標に、「日本一の元気な田舎、源快集楽・小河内」をコンセプトにした事業等小河内の情報を発信して参ります。引き続き皆さまのご指導、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。別表のように依然として小河内は少子高齢化と人口減少で過疎化が進行しております。今行っている活動や思いが伝わり住民に愛郷心と夢や希望が芽生え、若者が卒業後、或いは将来小河内に帰ってくるような環境整備と雰囲気生まれ、又都市住民に小河内に行ってみたい、住んでみたいと思っただけのようなまちづくりの実現を願っています。

皆さまの更なるお知恵やお力添えをお願いします。

農村体験ツーリズム「炭焼き体験」の参加者募集

小河内の炭焼き名人から炭焼きについての講習を受け、実際に炭焼き体験（炭焼きと木炭の取出し）をします。今回、弥太郎君の生産や農村体験ツーリズムへの活用のために、ふむふむ助成金（「ひと・まち広島未来づくりファンド＝Hm²」（ふむふむ））で楓原地区と一面地区に炭焼き窯を建設しました。当日は窯の披露を兼ねて行います。弥太郎君のお土産つきです。（1窯は当日火入れをし、別の1窯で事前に炭焼きしたものを当日取り出します）

実施日時 平成24年2月18日（土）午前10時～午後3時（少雨決行）

集合場所 安佐小河内集会所（午前9時30分より受付後、体験場所に移動）

体験場所 楓原地区・一面地区炭焼き窯

内 容 地元の炭焼き名人と一緒に炭焼き体験（火入れと木炭の取出し）

参加費 1,050円（弥太郎君の土産及び保険料込み）

定 員 15人（参加者多数の場合は抽選し、当選者にご連絡します）

持参物 お弁当、飲み物、タオル、手袋、マスク、帽子等、防寒対策をして参加下さい。

申込締切 平成24年1月30日（月）（必着）

申込方法 はがきに参加者の住所、氏名、ふりがな、年齢、電話番号、Eメールアドレスを記入

（①②）、または③でお申し込み下さい。

①安佐公民館「炭焼き体験」係（〒731-1142 広島市安佐北区安佐町飯室3455-1）

②小河内プロジェクト「炭焼き体験」係（〒731-1171 広島市安佐北区安佐町小河内4579-3）

③広島市のHP（1月15日～1月30日の期間）

問い合わせ先 安佐北区農林課（電話番号819-3932、FAX 815-3906）

農村体験ツーリズム「滝山登山」の参加者募集

小河内の最高峰滝山（691m）に黒瀬ルートで登ります。途中、昭和40年代に消滅した集落（矢が谷）があり、ガイド説明の往時の厳しい生活ぶりに思いをはせながら登って下さい。

約1時間30分で頂上に着きますが、途中険しい箇所がありますので、健脚向きです。

実施日時 平成24年3月10日（土）午前10時～午後3時（少雨決行）

午前9時30分より下記集合場所で受付

集合場所 安佐町小河内黒瀬 松田梅登宅（県道38号線平橋バス停を左折、車で約10分）

内 容 地元民のガイドにより消滅した集落を通り小河内最高峰の滝山（692m）に登ります。

参加費 550円（ガイド料及び保険料）

持参物 お弁当、飲み物、タオル、手袋、帽子等、登山出来る服装で参加して下さい。

申込締切 平成24年2月25日（土）（必着）

申込方法 はがきに参加者の住所、氏名、ふりがな、年齢、電話番号、Eメールアドレスを記入
①②、または③でお申し込み下さい。

①安佐公民館「滝山登山」係（〒731-1142 広島市安佐北区安佐町飯室3455-1）

②小河内Oプロジェクト「滝山登山」係（〒731-1171 広島市安佐北区安佐町小河内4579-3）

③広島市のHP（2月15日～2月25日の期間）

問い合わせ先 安佐北区農林課（電話番号819-3932、FAX 815-3906）

小河内産の酒米で特別純米酒「白島ろまん」ができました

昨年春から当法人と広島市白島商店会が交流を開始、小河内で6月初め田植え、7月草取り、10月稲刈りと共同で酒米をつくりました。

収穫したうちの約240kgで白島商店会員の酒造会社原本店が特別純米酒「白島ろまん」を醸造、平成23年12月31日の中国新聞で紹介されました。



小河内の統計資料

平成23年11月末 266世帯 人口535人（前年同月比 +2世帯 -11人）

表1 世帯数及び人口の推移グラフ

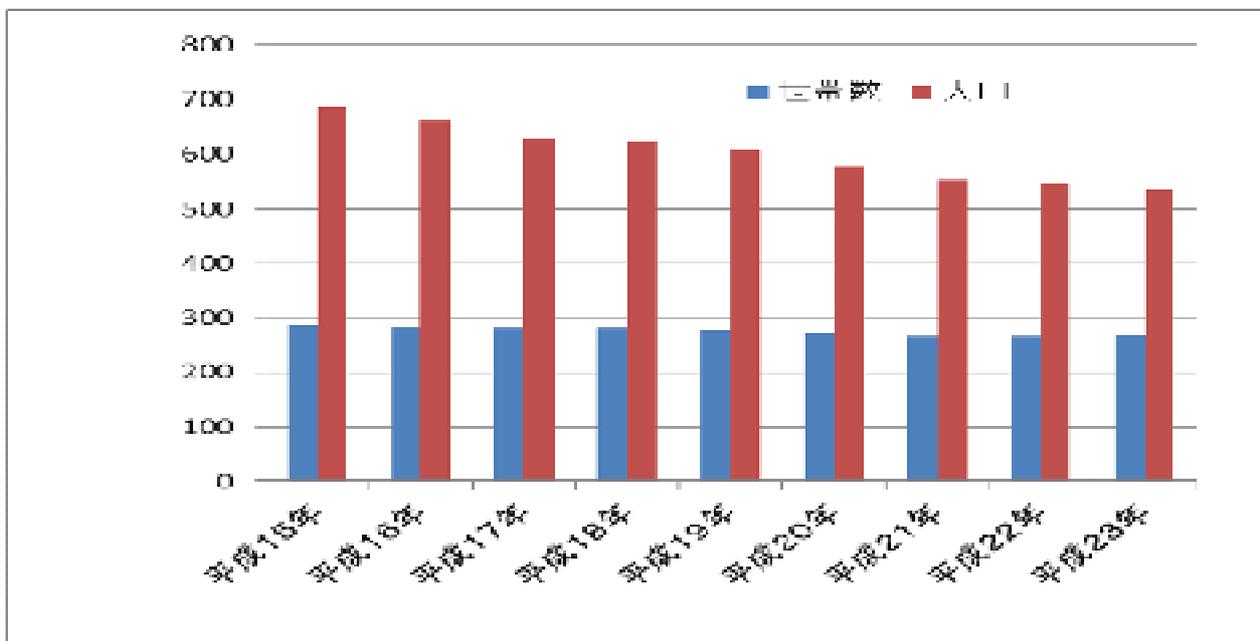
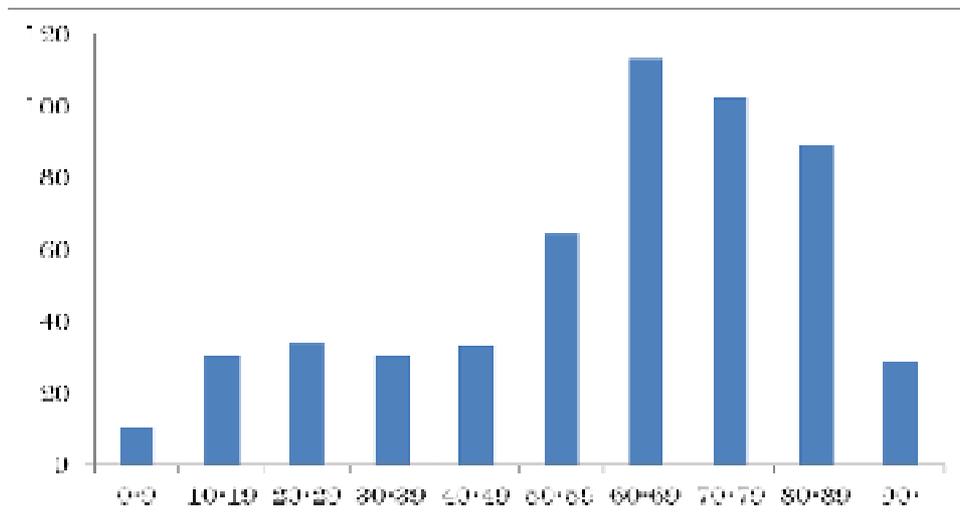


表2 世帯数及び人口推移の詳細

世帯数と人口の推移（何れも11月末）				
年 度	世帯数	人口（人）	対前年減（人）	対前年比
平成15年	288	686		(%)
平成16年	282	662	△24	△3・5
平成17年	279	631	△31	△4・9
平成18年	278	623	△8	△1・3
平成19年	277	609	△14	△2・2
平成20年	272	578	△31	△5・1
平成21年	264	551	△27	△4・7
平成22年	264	546	△5	△1・0
平成23年	266	535	△11	△1・6
平均減少	△2・4	△16・8	△151	△2・8

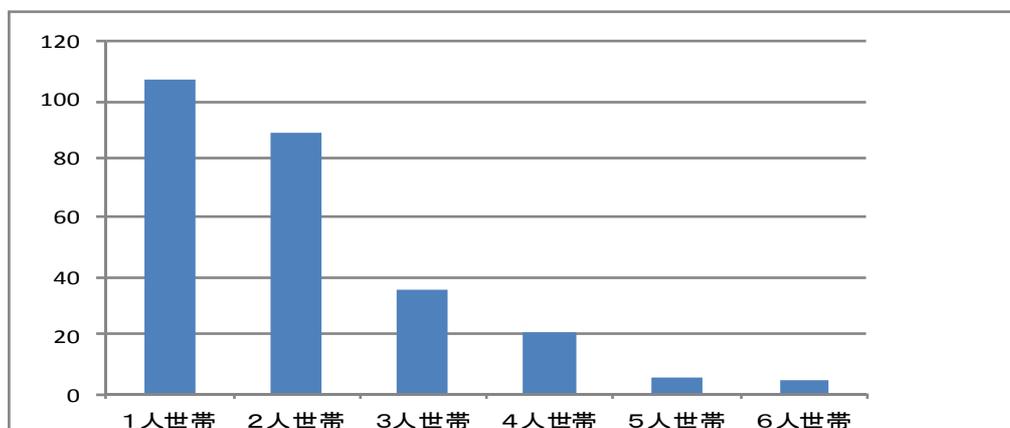
最近9年間の平均で1年間に2・4世帯、人口約17人（2・8%）減少。

表3 年代別人口



50歳以上が4人に3人、少子高齢化が進み近い将来大幅な人口減少が予想される。

表4 世帯員数別世帯



全世帯のうち1人世帯が約38%、2人世帯以下を合わせると70%強、核家族化が進んでいる。

2人世帯も夫婦共に高齢者が多く近い将来1人世帯に移行が予想され、安全安心や家事等一層暮らしにくくなるのが、予想されます。

都市住民との交流データから (平成21年度以降)

年度	行事、交流会	回数	地区外参加者(人)	備考
平成21～22	地域資源観察会	13回	600	
平成23	ハウス食と農と環境体験教室	4回	170	
平成23	白島商店会酒米作り	3回	170	
平成23	農村体験ツーリズム ・歴史探訪 ・柿もぎ(2回) ・ゆずもぎ ・漬物講習会	5回	260	牛頭山登山(中止) 年度内の予定 ・炭焼き(2月) ・滝山登山(3月)
計		24回	1,200	
小河内に初めて来た人(柿もぎアンケート43人回答)			31	72・1%

参加者数は概数です。

平成21年5月以降、約2年半で地区外から行事等に参加するため、小河内に来た人は延べ約1,200人
地元からの参加者、スタッフは推定延べ600人

合計推定で延べ約1,800人が小河内で交流しました。これが住民に自信と誇りを芽生えさせ、地区外参加者が小河内の魅力を感じ、小河内ファンが増え、小河内の活性化につながることを願っています。

平成24年度の計画について

事業年度が4月から始まるため、平成24年度の事業計画は未確定ですが、概ね23年度と同様です。

(中山間地等直接支払い制度による農地保全、ハウス、白島商店会の農業体験交流、柿もぎ、ゆずもぎ、漬物講習会、孟宗竹切り出し、加工等の農村体験ツーリズム、どんどん農園、弥太郎君製造販売、配食等)
新年度の事業計画の詳細は5月ごろお知らせします。

編集後記

お寺の元旦会で「無常」について法話がありました。この世のものはすべて「無常」であると。

私たち人間の身体も絶えず新陳代謝を繰り返しながら成長(老化も)しています。昨日の私と今日の私の身体は厳密には変わっている筈です。10年、20年と積み重ねると、良くわかります。

同じように、小河内も毎日変わっている筈です。10年前、20年前の小河内と今では大きく変わっています。今時代は脱経済志向、田舎志向、自然志向、環境を重視する時代、農業を見直す時代、ライフワークバランスを重視する時代……と人の価値観や意識が心の豊かさや自然豊かな田舎に向いています。経済の高度成長期に工場進出や団地開発で後れを取った、と思われた小河内が今豊かな自然と農村の原風景、文化を残している市内でも数少ない地区になっていることも無常でしょうか。

自信と誇りを持って小河内を日本一の元気な田舎にしましょう。そんな夢を見えています。(S)